

## 令和2年度第1回 沼津市総合教育会議 議事録

○ 開催日時 令和2年7月1日（水曜日）15時00分～16時33分

○ 開催場所 沼津教育会館3階大会議室

○ 出席者 市長 頼重 秀一  
教育長 奥村 篤  
教育委員 重光 純  
教育委員 三好 勝晴  
教育委員 土屋 葉子  
教育委員 川口 浩史

### ○ 協議・調整事項

テーマ1 沼津市教育大綱の策定について

テーマ2 重点教育施策について

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 出席者紹介

#### 3 協議・調整事項

#### テーマ1 沼津市教育大綱の策定について

会議の進行は、沼津市総合教育会議設置要綱に基づき、座長である市長が行う。

（市長）

教育大綱は、法に基づき、総合教育会議において、教育委員会と協議をした上で、最終的に私、市長が定めるものである。前回に引き続き、教育委員の皆様から御意見をお聞きした上で、十分に協議を重ね、策定していきたいと考える。

昨年度1月の令和元年度第2回総合教育会議において、教育大綱策定に向けた論点整理を行った。その内容を踏まえ、「素案」をまとめたので説明する。

教育大綱（素案）について、次の内容を説明

大綱の目的

○目的

誇り高い沼津を創造する 貴（たか）き志を持つ人づくり

○基本方針

1 人間力を磨く教育

- (1) 確かな知性の育成
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな体の育成

2 地域総がかりで取り組む教育

- (1) 地域が学びを育て、学びが地域を育てるまちの推進
- (2) 生涯を通じた学びの推進
- (3) 人づくりとまちづくりの一体的な推進

○今後のスケジュール

8月頃にパブリックコメントを実施し、次回総合教育会議で決定

(市長)

説明に対して、それぞれの立場から意見等いかがか。

(委員)

小学生の娘の学びのモチベーションの持たせ方に日々悩んでいる。今回、コロナにより休校となり、「これだけ勉強しなさい」と妻は言うのだが、もちろん子供はやらない。なぜ勉強しなければならないのか分からないまま勉強をするわけないのだが、勉強をした方がよいことは分かっている。いろいろ悩み、子供が勉強するようになるという本を読んでみたところ、目標を立てさせるとよいなどと書いてあったのだが、大人が勉強しろとも書いてあった。私自身、勉強したいと思うことはいろいろあるのだが、仕事が忙しくてできない。勉強をすることは、就職して資格が取れ、なりたい職業になれるとか、それによって人生が豊かになり選択肢が増えるといったメリットがある。地域で教育をしていこうということは簡単そうだが、自分の子供一人、思うように育てられない状況で、地域全体の子供の教育について、どのように語っていけばよいのか最近悩み始めている。本に書かれているところによると、親自身が手本を示し、勉強が楽しいとか、やることによるメリットや勉強すること自体に対する喜びを見出していかなければいけないのだろうと思う。親も家でスマホなど見ていないで、本を読むなど手本を示していかなければいけない。勉強したことによって、私自身は今の仕事に就け、それ自体は非常に充実感をもってやっているのだから、勉強することによって自分の世界の選択肢が広がることや、それにより今楽しく生きているということをお伝えしたい。なおかつ、人生まだまだやらなければならないことがあるということを示し、学び続ける姿勢を示していくことが大事であると思う。そういう意味で、地域全体が子供に学ぶ姿勢を見せることや、学び続けられる環境が地域にあるということが大事なのではないかと思う。2-(2)の「生涯を通じた学びの推進」に共感を覚える。

(市長)

私も子育て中である。確かに、子供に勉強しろと言っても、その意味や意義が伝わっていないと、子供のやる気を起こすことはなかなか難しい。自らの体験を伝えることは大事であり、親の立場や地域の方々の体験をしっかりと伝え、地域で支え育てていくことが非常に重要であると感じる。また、自分だけで悩むのではなく、周りとは協力していくことも大切である。

(委員)

これまでの何回かの会議を経てこのような形にまとまった教育大綱(素案)を読んで、とてもよいと感じた。私は沼津出身であり、大学から20年間ほど東京にいたが、沼津に戻った。やはり、生まれ育った沼津が好きである。目的にあえてこの「貴(たか)き」という字を使っているが、我々大人が沼津の批判をしてはだめで、いいところだという思いを語ることが大事である。そして、常日頃から、地域資源のよさを十分に分かってもらえるようにすることで、沼津が好きになり、よそへ出ても沼津に戻って生活しようかなという思いも生まれてくるのだと思う。東京一極集中と言われているが、地方にこそ生活の楽しさはあるのだということを感じてもらえるような教育ができればよいと思うので、一つ目の柱「人間力を磨く教育」は、よいのではないだろうか。二つ目の柱「地域総がかりで取り組む」という視点は、この時代だからこそ外せないと思う。まずは、われわれ地域の大人たちが子供たちに対して、できることをできる範囲の中で働き掛けることが大事である。地域のお祭りやイベントなどの機会に働き掛けていくことになろうかと思うが、それも楽しくないとだめである。また来年も来たいとか、またやりたいとかという思いは、楽しさの中にこそ出てくるものであると思う。

(市長)

地域で子供たちを一生懸命育てても、首都圏に近いという優位性から、就職や進学で首都圏に流れてしまい、人材の流出という課題になっている。そういう点で、地域の素晴らしさとか誇りといった自慢できるようなものを、地域と連携しながらしっかりと醸成していくことが非常に重要である。その意味で、「地域総がかりで取り組む教育」とした。「貴」については、徳とか人の心とかというところまでしっかりと育てていくことが、最終的に地域を愛し、地域のために貢献することにつながると考え、そのような人格を形成したいという大きな目標から、単なる「高い」ではなく、「貴い」とした。

(委員)

福祉の仕事をしているが、教育大綱(素案)を見て、すごくよいと共感したところがある。「人間力を磨く教育」の中の「豊かな心の育成」という部分である。私どもの法人では、毎年福祉体験ということで子供たちを受け入れている。核家族化が進み、おじいちゃんおばあちゃん、障害のある方などが一緒に暮らしているという環境もすごく少なくなっている。そういった中、受け入れた子供たちは、お年寄りからいろん

な言葉を掛けていただき、すごくよいものをいっぱい持って帰ってもらっていると思う。そういう意味で、大綱の「徳を育てる」という部分に大変共感できる。理想は、他の地域の方が、沼津の人って優しいよねとか、沼津の人って思いやりがあるよねと言うような、そんな徳のある人が育てられたらよいと思う。優しく思いやりがあり、人の気持ちが分かる人が育てられたらよいと思うが、結果が出るまでには時間が掛かり、大人になってから花開くことも多い。徳を育てることは、国語や算数などの教科を学ぶのと同じぐらい大事な教育であると思う。愛を持って人に接することができるような人を沼津の教育で育てていけたらよい。

(市長)

沼津には優しい人や思いやりのある人が多いと感じるのは、本市が自然環境や地域資源に恵まれているということが関係しているのではないかと思う。つまり、環境が人をつくるということである。自然環境や地域資源を活用することは、多様性を認め合い尊重する人材の育成という点において非常に重要である。また、花開くということについて、長期的な展望で見なければならぬという話が出たが、子供の頃は、いろいろな方がサポートし、守り育てる環境があっても、ひとたび社会に出ると、企業戦士という言葉があった時代もあるが、そんな中を戦い抜くには、花開くための芽をしっかりと植え付けておくことが必要である。子供の頃の環境や周りの人々を生かした様々な取組は、大人になってから花開き活躍する時に重要なものとなる。そして、そういう環境だったからこそ、やっぱり沼津だよなという印象を、その時に必ず持つと思っている。その部分に着目していただきありがたい。

(委員)

今回、この教育大綱(素案)を読み、これまで私たちが思っていたことが網羅された素晴らしい大綱になるのでないかと、とてもうれしく思う。大綱の目的である「誇り高い沼津を創造する貴(たか)き志を持つ人づくり」を、分かりやすくかみ砕いて言うと、沼津市に誇りを持つ子供たちを育てたいという意味であると思う。

基本方針の2つの柱のうち、特に感動したところは、1つ目の柱「人間力を磨く教育」の(2)「豊かな心の育成」である。どのような時代にあっても主体的に社会と関わり感性豊かに生きていく力を備えることが必要だということ、そして、最後に、人間として他者とともによりよく生きていくために必要となる豊かな心を育んでいくという部分である。今回のコロナによる社会的な大きな変革の中でも、人間として他者とともによりよく生きていくために必要な素養が育てられていけばということである。子供たちにとって、一番小さな社会は家庭であり、一番身近なのは、学校の仲間や学校生活である。春休みからつい最近までの急に訪れた休みは、求めたものではなかったが、家庭の中でいろいろな学びを得られたかも知れないし、学校で友と話し合うことや接することのありがたさが大切だと気付かせてくれたかも知れない。どのような環境にあっても、その後よい結果が出るような教育であってほしい。このことは、いろいろなことが起きたときに力強く生きていくことができる人間を育むという点

で、とても重要なことである。

次に、2つ目の柱「地域総がかりで取り組む教育」の(2)「生涯を通じた学びの推進」について、現在、沼津市で進めている市民大学や各地域の教室などは、皆さんが努力してやっており、参加者もとても熱心であるので、もっと市民に広げ、生涯を通じた教育を市が主体となって進めていってほしい。

(市長)

新型コロナウイルス感染症による約35日間の休業期間中、先生方は一生懸命各家庭に連絡を取るなどしていたが、再開後は、子供たちが明るくのびのびと学校で頑張っており、全国で発信されているような陰惨な例はないと聞いている。地域や家庭環境の中で、人間力がしっかりと醸成されていると捉えられる。さらにそのあたりをパワーアップさせるために、よりよき人間、人としての力や心を、しっかりと育てることを意識した人材育成の取組の成果で、もっと素晴らしい環境にもなると思う。また、生涯学習という意味においては、恵まれた自然環境や歴史、様々な研究をすることができるような素晴らしいものもたくさんあるので、素案では、そういうことをしっかりと活用することが重要であるとしている。

(教育長)

私は、心豊かに元気に健康であることが、人間が人間らしく最後まで幸せに生きるための究極ではないかと思う。人生100年時代と言われるようになったが、それには、これまで以上にたくましく元気に生き抜く力が求められる。必然的に健やかな体や体力の育成が必要である。平均寿命と健康寿命の差ができるだけ短い方がよいと言われるが、そのためには、生涯にわたってスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、そして、スポーツを育てる活動に自ら参画する機会を確保することが大事になる。今回、新型コロナウイルス感染症の拡大により、子供たちも大人と同じように大きな不安と未知へのストレスを感じながら生活してきたことと思う。不安やストレスの度合いは、人生における経験値が少ない子供の方が大きく、大変な思いをしていると思う。現在ワクチンや治療薬なるものが開発中ではあるが、実用化には時間が掛かるようである。それを待つだけでなく、大人も子供もウイルスに対する抵抗力を付けていくことが大事である。心と体の安定を保っていくためには、健康的な生活を習慣付けていくことが非常に大切である。習慣づくりには次の3つがよく言われる。「適度な運動」「栄養バランスの良い食事」、そして、「十分な睡眠」である。学校で、「早寝早起き朝ご飯」といってよく使われている言葉である。私はこの3か月間、長く睡眠を取ることができなかった。夢にもコロナが出てきてなかなか寝られなかった。心身の健康を保持するための適度な運動のポイントについては、委員から先ほど楽しくなければできないという話があったが、やはり面白いと感じることや体を動かすことが心地よいと実感することが大事であると思う。継続は力なりと言うが、継続することはなかなか難しい。私も以前、土曜・日曜はジョギングをしていたが、ある日膝を壊してしまい、現在は、ウォーキングに切り替え日課として続けている。教育委員会ではスポーツ振

興課が中心となり、沼津市スポーツ推進基本計画を 2014 年に策定し、2019 年から 2023 年までの 5 年間は、後期のスポーツ推進計画と位置付け実施しているところである。基本理念として、「するスポーツ」「観るスポーツ」「支えるスポーツ」とし、市民一人 1 スポーツを目指している。具体的には、体力作り教室の開催や、子供から高齢者までのライフステージに応じた活動の推進、競技スポーツへの支援、スポーツ活動を支える人材の育成に取り組んでいるところであるが、スポーツをすること自体が、喜び・楽しさをもたらす活動であると思う。子供から高齢者までがそれぞれの年齢や健康状態、あるいは技術的なことや興味・目的に応じて、市民一人一人が生涯にわたってスポーツに親しむことができるような環境づくりに努めることが大事である。そのためには、特に、子供たちに対してスポーツの魅力を伝えることやスポーツの持つ力を体感させることが重要である。東京オリンピック・パラリンピックは延期になってしまったが、私の部屋からすぐ下で新体育館の整備が始まり、わくわくしている。スポーツは、多くの人に勇気と感動を与え、心をつなげてくれる。市長は、以前からスポーツの力やスポーツの持つ可能性をまちづくりに生かしたいと話しているので、教育大綱の「健やかな体」には、そういう思いを込めて方向性を示されたのだと認識している。

(市長)

沼津市では、様々な面でスポーツをまちづくりに活用しているところである。東京 2020 オリンピック・パラリンピックは、残念ながら来年に延期という形になったが、国際的なスポーツの祭典が開催され、しかもこの静岡県においては、伊豆半島の真ん中と富士山麓のあたりで自転車競技が開催されるという最大のチャンスである。また、県においては、サイクリストの聖地化を目指す様々な取組があり、このサイクリングや東京オリンピックに関するスポーツを活用した取組が、非常にクローズアップされている状況である。様々な施策を展開していくという意味において、教育委員会の傘下にはスポーツ振興課があるが、市長部局の方においても、産業振興部の中にスポーツ交流推進課を設けて対応してきた。具体的な例としては、統廃合により廃校となった静浦東小学校の跡施設を活用して、「沼津サイクルステーション静浦東」を設置し、サイクリストのための拠点施設を作った。また、同校のプールをスケートボードや BMX、マウンテンバイクといったエクストリーム系の競技を楽しめるスキルパークという施設に転用した。これは、リノベーションによるまちづくりの一環でもある。さらに、愛鷹運動公園西側の市有地にもマウンテンバイクで楽しめる新たな施設を作った。こちらには多くのお子さん連れの方々がいらっしやって、活用していただいている。他にも、日本フェンシング協会と包括的連携協定を結び、現在、フェンシングの拠点都市を目指した取組を進めている。オリンピックを絡め、合宿や大会の誘致などを行い、第一線で活躍するアスリートを招くことで、子供たちに本物に触れる機会を提供しているところである。このようにスポーツ振興というのは、様々なものをリンクさせ、戦略的に行っていくことが重要である。現在、第 5 次沼津市総合計画を策定している最中であるが、その基本計画の中で、先ほども少し触れたように、多様性を認め合い

尊重するまちづくりを進めていくことは非常に重要な位置づけと考えている。例えばスポーツ振興部門と健康・福祉部門との連携を進めていくことなどは、すごく大事である。そういう点で、今後、市民のスポーツ振興やスポーツの魅力を活用した展開は、戦略的に進めていくことが重要であるとする。本市でも各部・各課が取り組んでいる様々な事業をしっかりと連携させながら、スポーツ行政を総合的に取り組むことができる体制や組織づくりがこれから求められる。

それでは、お話しいただいた教育委員の皆様の思いをしっかりと受け止め、「誇り高い沼津を創造する 貴（たか）き志を持つ人づくり」という目的にふさわしい大綱となるよう、策定を進めていきたい。今後、市民の皆様の意見を伺うパブリックコメントを8月頃に実施する予定である。そして、その結果を踏まえ、次回の総合教育会議において教育大綱案を改めて示し、再度、教育委員の皆様の御意見をお伺いした上で決定していきたい。

## テーマ2 重点教育施策について

(市長)

新型コロナウイルス感染症により、学校は、約2か月以上にわたる長期の臨時休業となった。沼津市においては、市民の命を守ることを最優先に、外出自粛や営業自粛など、市民・事業者・学校関係者などから多大な協力をいただきながら、何とか感染の拡大を食い止めようと取り組んできた。今後は、感染の第2波、第3波の恐れもあると言われる中、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の学校教育のあり方について、是非とも教育委員の皆様と意見交換を行いたい。

それでは、まず、新型コロナウイルス感染症への対応について、事務局から説明をする。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症への対応について、次の内容を説明

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"><li>1 臨時休業中の対応と、コロナにより可視化された課題<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 臨時休業中の対応（報告）</li><li>(2) 可視化された課題</li></ol></li><li>2 再開後の取組（報告）</li><li>3 感染者が確認された場合の対応・学校休業の考え方（提示）<ul style="list-style-type: none"><li>・新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応フロー（資料参照）</li></ul></li></ol> |
|--|

(市長)

説明に対し、質疑や意見等いかがか。

(委員)

今回のコロナは、我々人類にとってかつて経験のないウイルスであり、困ったものである。日本における当初の対応は、ステイホームと給付金ということであった。給付金については、いつまでも続くわけがなく、どちらかというとは今は経済に軸足を置いていこうという向きにもなっているようである。沼津市は、実質感染者がいない状況ではあるが、今後、第2波・第3波が押し寄せれば感染者も増加するであろう。基本的には、提示されたフローに則った対応となるのだろうが、感染者が増えたときには、状況に応じて柔軟な対応をしていただきたい。

一点、児童生徒用フローについて質問がある。①で発熱があった場合、どのような症状か分からない状態から、回復し、左側の「感染の疑いなし」に向かうわけだが、熱がその日に下がれば、24時間置くのだから、だいたい2日は休む格好になる。そうすると、風邪かどうか分からないということにならないか。「感染の疑いなし」という言うためには、この間に検査が入るのだろうか。どのような判断から、「感染の疑いなし」と言えるのか回答いただきたい。

これからは、ウィズコロナ・アフターコロナということで、大人も含め、どのようにやっていったらよいのだろうか。テーマIで、人と人とのつながりが大事であるということをお話したが、コロナはその逆の方向へ持って行こうとする病気である。そのような中、対策としては、ICT活用の努力をする、あるいはこの状況だからこそできることがあるとプラスに捉えていくことになるのだろう。学校側も様々な対応をしていくと思うが、学校の中だけで考えず、困ったときにはみんなで助け合うという方向にしていかなければ、乗り切ることができない始末の悪い病気である。みんなでやっていくのだという気持ちを、先生方も常に持って対応していただきたい。もう一つ言いたいのは、コロナに感染することは特別なことではなく、誰にでも感染の恐れはあることを、学校で、子供たちに話しているとは思いますが、誰かが感染したことが分かった時に、それをネットでどうこうされるということは、本当に悲しいことであるので、常々学校現場で子供たちに話をさせていただきたいと思う。そこだけはよろしくお願ひしたい。

(事務局)

委員から質問のあったフローの件については、基本的には医療機関にかかるということをお前提に作っており、子供や家庭に対しても、学校からそういった働きかけをすることを前提に、感染の疑いがないということをお医療機関の方からはっきり明言いただくことを考えている。また、偏見・差別については、保護者宛て通知の中にもそういった項目を入れているほか、今後も引き続き啓発していきたいと考えている。

(委員)

このフローは、これから配布されるのか。

(事務局)

すでに各学校から家庭に配布している。



(委員)

私の周囲の保護者は認識していないようだった。

(市長)

これは、危機管理に関わる重要事項である。伝わっていないということは非常に問題である。このフローは、各学校のホームページに掲載されているのか。

(事務局)

ホームページへの掲載は、一律には把握できていない。各学校を通じて配布をお願いしてあるが、確認したいと思う。

(市長)

各校にメール配信システムもあると思うので、配布と合わせて重要な書類を送ったということを通じた方がよい。

(委員)

小学生2人と中学生1人、3人の子供がいる。今回、コロナの騒動で突然休業になった学校と、コロナ禍でも仕事をしなければならない保護者、そして、社会全体が混乱し困惑し大変な状況にある中、まるで学校との繋がりが切れてしまうという不安な気持ちに襲われた人も少なくなかったと思う。そんな中、全小中学生に図書カードを配布するというニュースや、市長の読み聞かせ動画の配信といったことは、子供たちに対して、君たちを忘れていないという市からのメッセージのように思えてすごくありがたかったし、子供たちもすごく喜んでいた。まずは、このことに感謝したい。子供たちは、今までにない長期の休業を体験したが、最初は、学校が休業になったことをよしと思っていたものが、次第に、うちの子は特に、最後はもう休むのに飽きたと言っていた。休業期間中、子供たちが地域から姿を消したが、登校日になると外へ出てきたので、地域全体が明るくなった。学校は、勉強だけでなく様々な学びの場であり、一緒に笑ったりけんかしたり、また仲直りして泣いたりすることを通して、いろいろなことを学んでいく場であると改めて感じた。子供たちと学校はつながっておくべきであり、つながる仕掛けが必要である。今後の休業が長期化する可能性に備え、Zoomの活用等、是非ICT化を進めてほしい。

もう一点、感染症に対して、私ども法人では、毎年11月から3月まで、毎日検温を行い記録をしている。そして、37度5分、今は37度だが、熱があった場合は、出勤停止で様子を見た後に受診をするという流れがある。提示されたフローチャートは、まさにこのようなものだと思うが、このフローは、今だけでなく、この先もずっと使い続けたらどうだろうか。ウイルスはコロナだけではなく、インフルエンザもすごく怖いウイルスであるし、感染力で言えばノロウイルスも非常に怖いウイルスである。今回のコロナ禍は、感染症対策が平時の教育活動の中に組み込まれるよいチャンスだと思う。例えば、毎日の掃除を効果的に行うために、共有部分を次亜塩素酸ナトリウ

ムで消毒するとか、手洗い指導により手指消毒を習慣付けるとか、今学校でみんながやっていることを日常生活に組み込んでいくことが、恐らくウィズコロナ・アフターコロナでは有効になっていくだろう。要は予防策である。かかってからではなく、かからない対策をしっかりとしておくことが有効であるということだ。実際、今年、インフルやノロが流行したという話をあまり聞かない。恐らく国民のほとんどが意識を高く持って感染症対策を続けた結果だと思っている。毎年、インフルやノロによる学級閉鎖などが起き、学習の妨げになっている。今後は、毎年発生するという意識ではなく、予防していくという観点が日常生活に溶け込んでいくことが、感染症に対しては有効である。よく、新しい生活様式と言うが、決して新しいものではないと思う。

(市長)

第2波、第3波が想定される中、コロナを意識した新しい生活様式に沿った今後の学校教育のあり方について引き続き議論していきたい。今どうしていくことが重要であるのか、ポストコロナ・ウィズコロナの時代に何が必要なのか、それぞれの立場から意見をいただきたい。いかがか。

(委員)

今回の教育大綱が目指す「知・徳・体」の姿が求められる状況になってきた。知り合いのお嬢さんが1型糖尿病なのだが、糖尿病の持病のあった相撲力士がコロナで亡くなったというニュースを見て、大変ショックを受けたそうである。コロナウイルスに対しては、正確な知識を身に付けることで、正しく恐れ、予防していくことが大事である。コロナポリスとか自粛警察とかあったが、過度に恐れることで子供に対して不要なストレスを与えてはならない。差別意識を持たないことなど、正しい知識と徳を常々学校でも伝えていってほしい。

今回の休業措置により、子供たちはまったく学校に通えない日が続き、完全に放置された状況だった。今後、休業があった場合には、週に1回とか2週間に1回程度は、分散登校などにより子供の学習状況の把握をしてほしい。

(事務局)

双方向の遠隔学習等の話が出ているが、何よりも対面で学習を行うことや、教師と子供や子供同士が会えることを大事にしたい。各学校では、第2波に備え、分散登校の可能性をシミュレーションしながら準備を進めている。

(教育長)

今回の対応について、教育委員会としても反省するところが多々あるが、適切な教材プリント等の提供は、各学校が工夫をしてやってきた。今後は、教科書の内容を解説した教材プリントや動画などを組み合わせて提供していくことはどうだろうか。また、今回の休業中も行ったが、家庭と連携・協力しながら計画的・意欲的に学習に取り組むことができるような配慮として、学習計画表を配布し、各教科等の指導計画を

踏まえた1日の家庭学習の時間割や1週間の学習の進め方を、各家庭に提示をすることも継続して行っていきたい。また、学習状況や生活状況の把握、課題の確認をすることも大事である。課題を適宜確認することで学習の進み具合や定着状況を把握することは、円滑な授業再開につながると考える。今回、ゲームやSNSにのめり込んだり、生活の変化に伴って様々な悩みやストレスを抱えたりする子供が増えることが予想された。学校は、電話やメール、郵便、Zoomなどによるテレビ会議により、子供や保護者と連絡を取り合い、定期的に生活状況や健康状態の把握などに努めた。このことは、これからも徹底できると思う。子供や保護者とのつながりは、心の支えになるとともに、生活や学習の意欲向上につながることを各学校は実感している。先々週から、学校訪問を行っている。この長期の休業により、子供たちの生活習慣の乱れや運動不足による体力の低下、ゲームやテレビへの依存と視力の低下、肥満傾向が進むのではないかと心配した。また、小学校新1年生や特別な支援を必要とする子供たちが本当に心配であった。しかし、どの学校でも、どの学年においても、上手に学校生活のスタートを切ることができるような配慮が感じられ、本当に落ち着いて、授業や学びを楽しんでいた。新1年生が前のめりになって先生の話や友達の話の聞いている姿に驚いた。この3か月がなかったように、今までの4月と同じような光景が見られた。休業期間中、いかに先生方や学校が子供や家庭とつながっていたのかと感じた。先生方の苦勞に感謝している。

これからの学校に課されたものは、新型コロナウイルスの感染を防止し、子供たちの安全・安心の確保と学習機会の確保・学びの保障である。この困難な課題を克服することが求められている。コロナの第2波だけではない。大雨や今年の台風19号など、教育活動がいつストップしてもおかしくない。東南海地震もいつ起こるか分からない。コロナの第2波については、長期の学校休業や市内一斉の学校休業は想定していないが、発生したときには、備えや対応が必要である。

過日、沼津市PTA連絡協議会が実施した各家庭におけるインターネット環境に関する調査の集計結果をいただき、概要を把握することができた。教育委員会では、先般、その結果を基にさらに詳細な調査を実施し、先日取りまとめをしたところである。平日の日中、子供が使うことのできる端末がない状況や、Wi-Fi環境が整っていない環境、家にプリンタがない環境などが数値化された。このデータを基に、教育格差の解消や緩和に向けた方策を検討しているところである。折しも文部科学省が掲げるGIGAスクール構想の計画前倒しにより、今年度内の児童生徒への1人1台端末の整備が打ち出されたところである。整備されるまでの間、端末やWi-Fi環境の整わない家庭の子供たちに対して、学校に来られる状況であれば、教室等でオンライン授業を受けられるような体制を整えるということも一つの策であると考えている。また、整備が進めば、学校の端末を貸し出すことも検討している。その際、モバイル・ルータもセットで貸し出すことができるのかとか、その準備やSIMカード等の通信費の扱いをどうしていくのかとか、貸し出した際の賠償保険への加入はしたらよいかとか、そういういくつかの課題についても検討しているところである。授業のあり方についても、家庭では予習中心、学校ではその確認や復習といった、いわゆる反転学習

もこれからは取り入れていくことを想定している。今回のコロナは、これまでの学校教育のあり方を振り返る絶好の機会であると考えている。

(委員)

今の教育長の話に補足し、感謝の気持ちを述べたい。今年、初孫が新1年生なのだが、この休業中、まだ顔も見えていない担任の先生から何度も電話をいただいた。保護者への話の後、子供と話したいということで、いろいろなことを連絡していただいた。最近孫に、学校が楽しいか尋ねると、楽しくて楽しくてと答える。教育長が、学校訪問で1年生が前のめりになる授業を見たというのは、むしろ、この休業期間中の各担任の先生の努力の結果が表れているのだと思う。この休みをよい方向に利用していただきよかった。すごく感謝している。これは、市民の皆さんも思っていることだと思う。先生方の努力をとてもうれしく思う。

(委員)

学校は、今後の状況により様々な対応を迫られることになる。とにかく大変である。先生たちができることを最大限やっただけという状況は、伝わってくる。このまま収束してくれればありがたいが、経済に重きを置いている中であって、子供たちや学校に影響がないとは言えない場面が当然出てくるだろう。学校はもちろん連合自治会なども、感染したことで誰かが責められる状況がないように声を上げることが必要であると思う。

(教育長)

ウィズコロナということで、先生方は、毎朝玄関で子供たちの登校を待ち、検温をして来なかった子の体温を測るなど、一人一人に丁寧に対応している。また、給食の時間は、最大限気を遣っている。さらに、先生方自身もフェイスシールドをするなど、可能な限り3つの密を避けるための環境整備に力を注いでいる。学校は、消毒や換気といったことにもものすごく気を遣っている。新しい生活様式が、今後普通の生活様式に変わっていくと、委員が心配されているようなこともある程度は防げるのではないかと思う。

夏休みが非常に短くなってしまい、楽しみが少なくなってしまうと思うが、熱中症等にも注意しながら、学校生活を楽しむような8月にしていただければありがたい。中学3年生は、部活動や体育祭、文化祭、修学旅行についても不安があると思う。修学旅行については、本来の時期には行けず、もしかしたら本当に行けるのかという不安もあるだろう。さらに、文部科学省から県教委に、入試に対する配慮を求める通知があったが、県教委からの通知は実質的な配慮が感じられないものであった。中学3年生にとって、これから入試に向かっていく上での精神的な不安感・負担感は大いだと思う。そんな意味でも、中学3年生の不安を少しでも解消できるように、希望者に対して土曜日等を活用しながら補習していく「沼津寺子屋」を、退職校長会の皆さんや市議会の皆さんの応援もいただきながら、7月から来年1月まで実施することとし

た。

(市長)

それぞれの専門的な見地から貴重な意見をいただいた。参考にしたい。学校では、先生方が熱心に取り組んでいる。この 35 日間の休業を埋め、学業の保障につながるような取組を行っていただいているということである。地域の連携や協力が重要になってくると思うので、市長部局としては担当課がしっかりと対応し、感染症の拡大や未然防止の取組においては保健所の管轄で県とも連携しながらしっかりと取り組んでいきたい。併せて、市立病院という第三次救急の基幹病院と医師会の皆様とが連携し、この地域から陽性患者を出さないように、しっかりと取組を進めていく。地震や津波、水害などの危機管理事象に対して、市長部局でどのような対応ができるのか、総合的に取り組み、未来を担う子供たちの学習環境や安全・安心・命を守る取組など、しっかりと進めていかなければならないと考えている。本日いただいた貴重な意見を今後の運営に取り入れ、市長部局と教育委員会とがしっかりとタッグを組んで進めていきたい。

本日の総合教育会議を傍聴された議員の皆様方、学校関係の皆様方にも心から感謝を申し上げます。

#### 4 閉会